



アフリカ

No.107

NOW



TICAD VI 本会議が行われたケニヤッタ国際会議場前には、TICAD VIの開催を歓迎する看板が設営された

ケニア・ナイロビ 2016年8月

CONTENTS



目次

特集：2016年ケニアでの TICAD VIから2019年日本での TICAD VIIへ

Special Topic: From TICAD VI in Kenya (2016) to TICAD VII in Japan (2019)

TICAD と市民社会の23年(1993年～2016年)		3
TICAD VI：何が変わったの？どう変わったの？ What's new around TICAD VI?	斉藤龍一郎	4-5
TICAD VI：市民社会の取り組みを振り返って Looking back on civil society activities towards TICAD VI	藤井泉	6-7
TICAD VIの経験を振り返る Reflecting on my TICAD VI experience	ウィリブロード・ゼ＝ングワ Willibroad Dze-Ngwa	8-9 10-11
看護学生が TICAD VIの開催地ケニアで感じたこと Report by a nursing student - what I felt about TICAD VI in Kenya	久保田彩乃	12-13
野生のヨウムは救われるのか How to save wild African Grey Parrots	西原智昭	14-17
アフリカの現場から／カメルーン ヤウンデだより(第2回) On the spot in Africa; Cameroon - Letter from Yaoundé no.2	土手香奈江	18-19
ザンジバル島で白石頭二さんを想う Memories of SHIRAISHI Kenji in Zanzibar	深尾幸市	20-21
AKC リレーエッセイ(第2回) アフリカキッズクラブ・サマーキャンプに参加 アフリカキッズクラブ・クリスマス会を開催	麻生令 榎本悠人	22-23 23
AJF 事務局から読者の皆さんへ～ひとつの結び目として／活動日誌		裏表紙

TICAD VI:何が変わったの？ どう変わったの？

What's new around TICAD VI?

齊藤 龍一郎

SAITO Ryoichiro

アフリカ連合委員会が開催地決定を調整

TICAD VIはケニアのナイロビで開催された。

2008年のTICAD IVまでの4回のTICADでは、アフリカ諸国は招かれて参加するゲストであった。2011年にアフリカ連合委員会（AUC）がTICAD共催者に加わり、2013年のTICAD Vからはアフリカ諸国もAUCを通してTICADの準備・運営に関わるようになった。2013年3月にアディスアベバ（エチオピア）で開かれたTICAD V直前の閣僚会議で、AUCから「（中国＝アフリカ協力フォーラムにならって）日本とアフリカで交互開催」が提案されたことを受けて、TICAD Vで採択された横浜宣言では⁽¹⁾「5.2 我々はTICADプロセスの実績に基づくとともに、アフリカの開発ニーズや開発課題におけるアフリカのオーナーシップをより効果的に反映するため、TICADプロセスを更に発展させることをコミットする」と明記された。

そして、TICAD VIの開催地として名乗りを挙げたケニアとガンビアの間にAUCが入って調整を進め、ガンビアでTICAD VI閣僚級準備会議が、ケニアでTICAD VIが開催されることになった。「（1993年の最初の）TICADの主たるテーマは『オーナーシップ』と『パートナーシップ』⁽²⁾ということだが、23年目にしてようやく現実のものとなったと言えるだろう。

TICADを3年ごとにアフリカと日本で交互に開催するというTICADプロセスの変化について、ジェトロ理事の平野克己さんは「今やアフリカを巡ってサミットは競争であり、（中国、韓国、インド、米国など）色々な国がサミットをやっている」と語った（2015年2月、よこはま国際フォーラム「次回 TICAD VIはアフリカで!？」での発言）。また、AUC以外にも、国連アフリカ担当特別顧問（OSAA）、国連開発計画（UNDP）、世界銀行と、日本政府以外のTICAD共催者は、アフリカに関わる課題に取り組むことを主要な業務の一つ

としており、それぞれの機関には多数のアフリカ人がスタッフとして働いている。かつてUNDPの局長だったリベリアのサーリーフ（Ellen Johnson Sirleaf）大統領のように、国連や世銀での勤務を終え、母国へ戻り政治家や経済人として活躍するアフリカ人も少なくない。日本のアフリカ理解、歴史的背景や現状を踏まえた関わりが、TICADプロセスを通してこれまで以上に問われることになる。

アフリカ市民社会の取り組みの広がり

AUCがTICAD共催者の一員となったこと、そしてアフリカでTICADが開催されることは、アフリカの市民社会にとって、課題を提起し取り組みを進める場が広がったことを意味している。

2008年のTICAD IVではフォローアップ・メカニズムが設けられ、2009年から毎年開かれてきたフォローアップ閣僚級会議（2009年ボツワナ、2010年タンザニア、2011年セネガル、2012年モロッコ）の際に、TICADに長らく関わっているアフリカ市民協議会（CCfA: Civic Commission for Africa）および開催国・近隣諸国の市民社会組織（CSO）が戦略会合を持ち、閣僚級会議へオブザーバーとして参加し、提言活動や発言を行ってきた。とはいえ、CCfAの活動がなかなか広がらなかったこともあって、アフリカ市民社会からTICADプロセスに継続的にアプローチしていく取り組みがあったとは言えなかった。

2013年6月にAUの総会で、TICADの3年ごとの開催と、横浜でのTICAD Vから3年後の2016年にアフリカでTICAD VIを開催するために日本を含む関係者とアフリカ側が協議をすることが決定されたことを踏まえ、市民ネットワーク for TICAD (Afri-Can) は、2015年7月にケニアとエチオピアに世話人らを送り、ケニアの市民社会との連絡・調整やAUなどへのアプローチを進め

さいとう りょういちろう AJF 理事。2000年4月から2016年10月まで AJF 事務局長。立命館大学生存学研究センターで、生存学ウェブサイトのアフリカ関連情報データベース作成・更新を担当。

ていった。

アフリカの市民社会も同年11月にナイロビで戦略会合を行い、2016年3月には主要メンバーが来日し、「みんなの TICAD フォーラム」でプレゼンを行った。また Afri-Can と一緒に、2016年3月にジブチで開かれた高級実務者会合と6月にガンビアで開かれた閣僚級準備会合に対する取り組みを進めてきた。

2016年6月に、閣僚級準備会合に向けてナイロビで開かれた TICAD VI 非国家主体啓発会議に100名におよぶケニアの市民社会関係者が参加したことは、8月の TICAD VI 本会議直前にナイロビで取り組まれた市民社会によるサイドイベントにつながった。

「世界経済の最後のフロンティア」 アフリカへの注目の高まり

TICAD VI には、日本とアフリカの市民社会だけでなく日本の企業も関心を示していた。多くの報道記事⁽³⁾の中から、日本社会、特に企業のアフリカと TICAD VI に向けた関心をうかがわせる記事を2本紹介する。

「アフリカ南東部のモザンビーク。1人当たり国民総所得が700ドルに届かない最貧国の一つが、日本のアフリカ開発の突破口になろうとしている。／数日前、2隻目の船がキミツに向けて出航したよ」。首都マプトから北へ1500キロメートル。インド洋に面したナカラ港の棧橋で現地の担当者が語った。／キミツとは新日鉄住金君津製鉄所（千葉県君津市）のことだ。今年5月、ここから積載量17万トンの大型輸送船を使った日本向けの原料炭輸出が始まった。」⁽⁴⁾

「TICAD には約100の日本企業・団体が参加した。豊田通商と日本郵船は仏複合企業ボロレと組んでケニアに合弁企業を設立、タンザニアやウガンダを含む東アフリカ地域で完成車の物流事業を始める。豊通はケニアで手掛ける地熱発電の事業拡大に向けた調査を開始するほか、エチオピアでも同発電を始める計画だ。／ NEC はコートジボワール国家警察に指紋などの生体認証技術を導入し、テロ対策などセキュリティの強化をめざす。三井住友銀行はアフリカ開発銀行やアンゴラ開発銀行などと覚書を結び、人材育成や顧客紹介などを通じ、具体的な融資案件につなげる狙い。／三菱商事は仏トタルや日本貿易保険と組み、ケニア中部で40メガワット規模の太陽光発電所を建設・運営する。丸紅はウガンダやカメルーンなどで病院運営や地域医療のインフラ整備で協力する。」⁽⁵⁾

モザンビークでは政府に批判的なジャーナリスト・

研究者の暗殺や拉致が相次ぎ⁽⁶⁾、また武装紛争を恐れる人々が隣国マラウイへ難民として逃れている⁽⁷⁾。リオデジャネイロ・オリンピックのマラソンで2位になったエチオピアの選手が抗議のポーズをとり「9ヵ月で1,000人以上が殺害された」と訴えて⁽⁸⁾、世界中から注目を浴びたのも2016年8月のことであった。

2016年10月には国際通貨基金（IMF）が、資源に頼るアフリカの国々の経済成長が停滞し財政赤字が膨らんでいくことへの警告を発している⁽⁹⁾。これと前後して、予想されていたモザンビークの債務返済不可能が2017年1月16日に明らかにされた。このことを伝える "The Economist" の記事⁽¹⁰⁾ は、'In 2014 Mozambique seemed a good place to host the IMF's "Africa Rising" conference.' と書き始められている。

企業のアフリカ進出にとって、アフリカの国々の状況と政治・社会の今後への見通しをしっかりと理解しフォローしていくことが、これまで以上に重要になっている。それに対して現状では、適切な情報の提供や分析が不十分であり、大きな課題になっている。

(1) http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/page3_000209.html

(2) Afri-Can ウェブサイトの「連載インタビュー『私とアフリカ、私と TICAD』(2) 黒河内康さん」

http://afri-can-ticad.org/interview_top/interview_002/

(3) <http://www.arsvi.com/i/2-ticad.htm> に収録。

(4) 日本経済新聞 2016年8月18日「アフリカ12億人市場争奪 日本の官民総力／インフラ、国またぐ広域開発テコ」

(5) 日本経済新聞 2016年8月28日「アフリカ投資、日本企業・団体が73件で覚書／首相『さらなる発展へ協力』」

(6) Mozambique news reports and clippings 'Mozambique: Gilles Cistac gunned down', 3 March 2015

<http://allafrica.com/stories/201503040921.html>

(7) UNHCR 'UNHCR begins relocating Mozambican asylum-seekers in Malawi', 15 April 2016

<http://www.unhcr.org/news/latest/2016/4/5710d5746/unhcr-begins-relocating-mozambican-asylum-seekers-malawi.html>

(8) http://www.cnn.co.jp/special/rio_olympics2016/35087848-2.html

(9) Reuters 'IMF urges African states to cut deficits as growth grinds lower', Oct 25, 2016

<http://www.reuters.com/article/us-africa-economy-imf-idUSKCN12P0IM?il=0>

(10) The Economist 'Boats and a scandal, Mozambique's default', Jan 19th 2017

<http://www.economist.com/news/middle-east-and-africa/21715030-mozambique-fails-pay-its-debts-mozambiques-default>

TICAD VIの経験を振り返る

ウィリブロード・ゼ＝ングワ

Willibroad Dze-Ngwa

日本とケニアで TICAD VIに関わって

ケニア・ナイロビでの TICAD VI 本会議、そして日本およびジブチでの TICAD VI 準備会合への参加は、人生を変えるほどの経験でした。特に、アフリカが持っている資源を能動的に活用したパートナーとなる国々が何をなすべきかを決定することを支援しようとする取り組みを知り、アフリカー日本関係の印象がきわめて大きなものになりました。日本の市民社会組織が実りある開発を目指し、注意深く持続的に積み重ねてきた努力に基づく模範的な協力に触れて、私は世界の平和と相互理解を求める気持ちをさらに強くしました。市民ネットワーク for TICAD (通称：Afri-Can) がアフリカ市民協議会 (CCfA; Civic Commission for Africa) と一生懸命協力していることを目のあたりにしました。2016年3月、アフリカと日本の NGO ネットワークである CCfA と Afri-Can は、力を合わせ積極的にジブチでの開かれた TICAD 高級実務者会合 (SOM) に参加しました。二つのネットワークは8月の本会議に向けて、重要分野で同じ立場を取ったのです。

SOM の後、私たちは日本へ行き、東京で Afri-Can およびアフリカ日本協議会 (AJF) が共催した「みんなの TICAD フォーラム～アフリカと日本の新しい船出」に参加しました。日本のネットワークが、アフリカ大陸を発展させていくための各分野での協力について、日本人とアフリカ人が一緒になって討論するフォーラムを開催したのです。このフォーラムを良い機会として、CCfA の代表団は、持続可能な開発目標 (SDGs; Sustainable Development Goals) 達成に向けて重要な提起を行いました。私は熱意を込めて、アフリカにおける平和と安全保障に関して提起しました。CCfA の代表団は、ナイロビで開催が予定されている TICAD VI で CCfA が果たす役割を説明するために、駐日ケニア大使館への表敬訪問も行いました。

東京から京都へ移動し、私たちは5月に開催される G7 サミットに向けた Civil G7 対話に参加しました。CCfA は、G7 がアフリカの発展のために適切な取り組みをなすべきことを呼びかけるという重要な役割を担いました。北の国々そしてアジアの国々の代表たちがアフリカの問題にまったく関心を持っていない中、Afri-Can が Civil G7 対話への私たちの参加を準備しました。CCfA は Civil G7 対話に参加した唯一のアフリカの団体でした。

3月23日に京都で開いた CCfA 理事会で、ナイロビで開催される TICAD VI に向けた直前の取り組みについて討議しました。(TICAD V で採択された) 横浜宣言をレビューし、市民社会組織 (CSO) が達成できた目標と達成されていない目標について検討しました。TICAD VI の重要分野と考えられるこれまでとは違った分野、そして SDGs に焦点をあてた分析となるよう注意して検討しました。私たちは、ガンビアで開催される TICAD 閣僚級会議および民間セクターやメディア、アカデミア、在外アフリカ人、アフリカ連合 (AU)、各国の外務大臣らが参加してナイロビで開かれる TICAD VI 非国家主体啓発会議に向けた準備を進めました。CCfA と Afri-Can は、TICAD プロセスに関わるさまざまな関係者に考えを伝えるために充実したサイドイベントを準備しました。

TICAD VI に向けた取り組み、そして TICAD VI 後の取り組みの経験から、日本がアフリカとしっかりとつながっていかうとしていることを理解しました。日本政府は、日本の CSO が事前に会議のアジェンダへ提言する機会を提供していました。日本の民間セクターの重要な人々がケニアへやってきたことも、協力する意志の強さを示していました。私たち自身の経験と知恵に基づいて、TICAD 宣言の起草に関わる機会を与えられたことも興味深いことでした。

ウィリブロード・ゼ＝ングワ 2015年11月より CCfA 副代表(アフリカ問題担当)および中央アフリカ地域選出理事。非識字・紛争・人権侵害に反対するアフリカ・ネットワーク (ANICHR; African Network against Illiteracy, Conflicts and Human Rights Abuse) 事務局長。

※ 本稿の英語原文を10～11ページに掲載しました。

アフリカ市民社会が直面する課題

以上の成果はあるものの、アフリカ市民社会は以下の課題に直面しています。

- ・アフリカ市民社会の最大の課題の一つは、自律的な活動を進めていくに十分な資金を持っていないことです。そのため CCfA は、活動の一部について、日本のネットワークに依拠せざるをえませんでした。アフリカの CSO を資金的に支援することは成果をあげるために重要です。

- ・他の大陸の CSO が G7 プロセスをそれぞれの課題を提起する場として活用しているにもかかわらず、アフリカの現実 は G7 プロセスの中でしっかりと伝えられていないことも課題です。したがって、CCfA と日本のネットワークは CSO 全般にとっての課題だけでなくアフリカの CSO 特有の課題を提起するために G7 プロセスの中に参加しなければなりません。

- ・アフリカのインフラストラクチャー、産業化、レジリエンス、持続可能な保健システム、社会保障に関わる課題を広く知らせるために、TICAD プロセスにおける起案、実施、モニタリングと評価に関与していきます。

- ・アフリカ市民社会はリーダーシップの課題をかかえています。体制順応と反体制、仏語圏と英連邦圏そして親日本、といった関心領域の違いがあり、一つの大きな声で語る事ができないでいます。

- ・土地収奪という大きな課題にも直面しています。TICAD VI に基づく農業への膨大な投資が、小規模農民を排除し小規模農民の苦境をさらに悪化させることがないのか、はっきり示されていません。人権の問題があり、また一部のアフリカの国々の政府が市民を国外の暴虐な雇用者の手に委ねてしまったという悲しい経験があります。

- ・アフリカ市民社会は、周辺化、社会的排除、失業、暴力的原理主義、若者たちの過激化に立ち向かい、社会を安定させ平和を持続させるという課題、そして国家構造を強化し、法の支配を促し、自由で透明で信頼のおける選挙の実現と人権と自由の尊重を推進し、良い統治を定着させ、腐敗と不処罰を許さず、決定過程への包摂を確実にするという課題にも直面しています。

カメルーンにおける CCfA の活動

私は CCfA 副代表（アフリカ問題担当）および中央アフリカ地域選出理事として、カメルーンおよび周辺諸国で CCfA の活動を行うことも重要です。2016年2月27日、ヤウンデで開いた会合を踏まえて、6人のメンバーによる暫定 CCfA 中央アフリカ地域組織委員会



TICAD VI サイドイベントでプレゼンを行うゼングワさん(左)
ケニア・ナイロビ 2016年8月

を立ち上げました。IPD (Institut Panafricain pour le Developpement) に所属する日本人の友人、土手香奈江さんは、いつも会合を手伝ってくれます。

日本とケニアへ旅立つ前、私たちは、国際協力機構 (JICA) カメルーン事務所の梅本真司所長、在カメルーン日本大使館の岡村邦夫大使を表敬訪問しました。2016年3月3日に大使を訪問した際には、ANICHRA (African Network against Illiteracy, Conflicts and Human Rights Abuse) の文化担当者の Mrs. Achuo Rosemary、Dr. Apisay Eveline Ayafor と一緒でした。大使は、日本政府と CCfA との協力について、ユニセフ、国連開発計画 (UNDP)、国連難民高等弁務官 (UNHCR)、世界銀行といった国連機関を通じた間接的なものなることを説明しました。また大使は、カメルーン国内におけるボコ・ハラムの活動にも懸念を示していました。

TICAD VI に関わる、ナイロビでの会議前・会議時そして会議後の経験をふまえて、ヤウンデで開催した TICAD VI 報告会には、40を超える CSO が参加しました。この報告会には、TICAD VI に共に参加し、アフリカ中部地域の小規模農民による活動を代表する Mrs. Langsi Ruth Yeloma も参加しました。私たちは、TICAD VI に関わる活動の詳細な報告を行い、参加者およびメディアに、ナイロビ宣言と実施計画を配布しました。また、アフリカ市民社会、日本の市民社会が共同で発したプレスリリースも配布しました。

その後、TICAD プロセス全体を伝えるメディア (ラジオとテレビ) への広報キャンペーンも行いました。ANICHRA を通して、カメルーンのブエア、ドゥアラ、ウム、ヤウンデで「市民と平和教育」「若者の過激化を防ぐ」「暴力的原理主義を封じ込める」「宗教間対話」「コミュニティの発展」をテーマにしたワークショップも開催しました。これらのワークショップを通じて、カメルーン人の福祉の改善につながる能力を向上させることができました。

翻訳: 斉藤 龍一郎

Reflecting on my TICAD VI experience

Willibroad Dze-Ngwa

My impression and observation after participating in the TICAD in Japan and Kenya

My participation in the TICAD VI summit in Nairobi (Kenya) and in some Pre-TICAD VI preparatory meetings in Djibouti, Tokyo and Kyoto (Japan) was a life-changing experience. My impressions on the Africa-Japan relationship, especially their quest to assist Africa to take ownership of its resources and decide what partners to make was quite enriching. Their exemplary collaboration based on concerted and sustainable efforts for effective development increased my zeal towards global peace and understanding. I experienced a deep sense of commitment by the Japan Citizen Network for TICAD (JCNT) to collaborate with the Civic Commission for Africa (CCfA). These two umbrella organizations combined their efforts and actively participated in the Senior Official Meeting (SOM) of the co-sponsors of the TICAD process in Djibouti in March 2016. The two organizations took a common position on the priority areas for the Conference in August.

After the SOM meeting, we proceeded to Japan (Tokyo) to attend the TICAD People's Forum-New Horizon of Africa and Japan organised by JCNT and Africa Japan Forum. Our Japanese counterparts facilitated a forum that brought together Japanese and Africans to discuss areas of collaboration in developing the African Continent. This gave the CCfA delegation an opportunity to make valuable contributions on the Sustainable Development Goals. I was particularly active and presented a paper on peace and security issues in Africa. The CCfA delegation paid a courtesy call to the Embassy of Kenya in Japan for a debriefing on CCfA's role in the upcoming TICAD VI conference in Nairobi, Kenya.

From Tokyo, we moved to Kyoto to attend preparatory meetings for the G7 Summit which was scheduled for May 2016. This was a crucial engagement for CCfA to raise pertinent issues on G7's contribution to Africa's De-

velopment. The representatives from Northern and Asian countries had little interest in African issues, although the JCNT facilitated our participation during the meeting as the CCfA were the only Africans present at this meeting.

A CCfA Board Meeting was held on March 23rd 2016 in Kyoto to discuss the countdown to the TICAD VI meeting in Nairobi (Kenya). We reviewed the Yokohama Declaration and presented a CSO perspective of what has been achieved, what has not been achieved and the way forward. Care was taken such that analysis focused on the different thematic areas identified as priority areas for TICAD VI and the Sustainable Development Goals. We also prepared for the TICAD Ministerial Meeting in the Gambia and a Non-State Actors workshop in Nairobi which was a high profile meeting involving the private sector, media, academia and the Diaspora, the AU, Foreign Ministers etc. The CCfA and JCNT organized enriching side events to better articulate their positions to the different stake holders of the TICAD process.

Evidently, our pre-TICAD, TICAD VI and post-TICAD VI experiences showed the determination of Japan to truly reconnect with Africa. The Japanese government to a large extent opened up space for CSOs in Japan to contribute to the upcoming agenda. Bringing along the "who-is-who" in the Japanese private sector to Kenya was another clear manifestation of a strong will to collaborate. It was interesting that we were provided with space to engage in the conception of the TICAD declaration based on our lived experiences and knowledge.

Challenges faced by African Civil Societies

Despite the above-mentioned, African Civil Societies have some concerns:

- One of the biggest challenges of the African civil societies is inadequate financial resources to carry on its activities with some autonomy. This is serious because im-

Willibroad Dze-Ngwa (PhD) is the Vice President in Charge of African Affairs in the Civic Commission for Africa (CCfA) and Focal Person in the Central African Sub-Region. He is Executive Director of African Network against Illiteracy, Conflicts and Human Rights Abuses (ANICHRA).

plementing the SDGs requires enough resources. This has made the CCfA to be dependent of their Japanese counterparts for some of their activities. It will be important to empower African CSOs financially for effective output.

- Another challenge is that Africa's realities were not well articulated in the G7 process-while the other continents used the G7 processes to promote their issues. It is therefore incumbent for CCfA and their Japanese partners to be given space within the G7 process to advocate for relevant issues pertaining to African CSOs in particular and CSOs in general.

- The CCfA is concerned about their involvement in the conception, implementation, monitoring and evaluation processes within the TICAD process in order to better articulate Africa's challenges in infrastructure, industrialization, Resilient and sustainable Health systems and issues of Social Security.

- African Civil Societies have the challenge of leadership. The different interest areas: pro-establishment, anti-establishment, pro-Francophonie or pro-Commonwealth, pro-Japanese CSOs have failed to speak with ONE LOUD VOICE.

- Another great challenge for the CCfA is the issue of land-grabbing. There are no clear dispositions that the huge investments in agriculture under TICAD VI will not displace small scale farmers and worsen their plight. Human rights issues and sad experiences of how some African governments allow the citizen into the hands of crude employers abound.

- African Civil Societies are equally faced with the challenge of guarantying stability and sustainable peace by fighting against marginalization, social exclusion, unemployment, violent extremism and youth radicalization and build strong internal state structures which promotes the rule of law; free, transparent and credible elections; promote the respect of human rights and freedoms; ensure good governance and the fight against corruption and impunity; and ensure the inclusion in decision-making.

CCfA activities in Cameroon

As Vice President of the CCfA in charge of African Affairs, and Focal Person for the Central African Sub-Region, it is important to spread the CCfA activities in Cameroon and beyond. We have a six-man interim regional coordinating team of the CCfA for Central Africa set up after a meeting on Saturday 27th February, 2016 in Yaoundé. Ms. Kanae Dote, our Japanese friend of the Pan



Prof. Dze-Ngwa's presentation at the TICAD VI side even (Left)
Nairobi, KENYA Aug. 2016

African Institute for Development, has always been helpful during our meetings.

Prior to our trip to Japan and Kenya, we paid a courtesy visit to the JICA Resident Representative to Cameroon, Mr. Umemoto Shinji and the Japanese Ambassador to Cameroon, H.E. Okamura Kunio and her assistant Yoshino Sawako. I was accompanied to the Ambassador's by Mrs. Achuo Rosemary, Cultural Affairs Officer for ANICHRA and Dr. Apisay Eveline Ayafor on Thursday March 3rd, 2016. The ambassador advised that in terms of collaboration, CCfA could only collaborate indirectly with the Japanese government through UN agencies (UNICEF, UNDP, UNHCR, World Bank). The ambassador was concerned with the Boko Haram situation in the country.

After the very rich experience gathered prior, during and after the TICAD VI Conference in Nairobi, we organized a restitution of the activities of TICAD VI in Yaounde attended by over 40 CSOs. Worthy to note is that I was accompanied to the conference by Mrs. Langsi Ruth Yeloma, representing small farmers' scheme in the Central African Sub-Region. We presented a detailed report of the TICAD VI activities and distributed the Nairobi Declaration and the Implementation Plan to participants and the media. We equally gave out the joint press release by African and Japanese Civil Societies.

We have since carried out media (radio and Television) sensitization campaigns about the TICAD process as a whole. Through the African Network against Illiteracy Conflicts and Humans Rights Abuse (ANICHRA) we have organized training workshops in Buea, Douala, Wum and Yaounde on "Citizenship and Peace education", "Youth de-radicalization" and "rolling back violent extremism", "inter-religious dialogue" and "community development". Through these training workshops we have been able to build capacity and competences that should improve on the welfare of Cameroonians.